第５次
富士宮市地球温暖化対策実行計画
（事務事業編）

令和７年度結果報告書

令和８年１０月

富士宮市　環境未来課

1　計画の概要

（1）計画期間

実行計画の期間：２０２０（令和２）年度～２０３０（令和１２）年度

本計画の期間は、２０２０（令和２）年度から２０３０（令和１２）年度までの１１年間としています。本計画の策定に当たっては、基準年度を２０１３（平成２５）年度として削減目標を定めます。

なお、社会情勢の変化、法改正等により、必要に応じ見直しを行います。

（2）温室効果ガス排出削減目標

削減目標：２０３０（令和１２）年度までに２０１３（平成２５）年度比で６２．６％削減する

分野別排出量の削減目標を、次のとおり設定します。　（単位：ｔ－CO_2）

排出起源		基準年度実績 2013(平成25)年度	2030(令和12)年度目標	
電気の使用		16，445	電力使用量の削減及び新エネルギー等の導入により、温室効果ガス排出量を基準年度比で約51%削減します。	8，058
燃料の使用	都市ガス	3，248	燃料使用量の削減等により、温室効果ガス排出量を基準年度比で約51%削減します。	1，592
	LPガス			
	A重油			
	灯油			
	ガソリン・軽油（公用車燃料除く）			
	公用車燃料	426	公用車使用による燃料（ガソリン及び軽油）の削減等により、温室効果ガス排出量を基準年度比で約35%削減します。	277
ごみの燃焼		24，534	ごみの焼却量の削減により、温室効果ガス排出量を基準年度比で約77%削減します。	5，542
その他 ・自動車（カーエアコンの使用、自動車の走行） ・下水、し尿の処理		1，973 （H25年度値が不明のため、H26年度実績値を使用）	可能な限り削減に努めますが、数値目標は定めません。	1，973

（３）計画の対象物質

本計画では、温対法第２条第３項が対象としている下記の７種類の温室効果ガスを対象とします。

名称	概 要	地球温暖化係数（温室効果）
二酸化炭素（CO_2）	主に石油や石炭などの化石燃料の燃焼により排出されます。エネルギー消費を伴う日々の生活と密接に関係しています。	1
メタン（CH_4）	水田や家畜の腸内、廃棄物最終処分場における有機物の嫌気性発酵等において発生します。	28
一酸化二窒素（N_2O）	化石燃料や一般廃棄物の燃焼、農用地の土壌や家畜排泄物等から発生します。	265
ハイドロフルオロカーボン類（HFCs）	冷凍機器、空調機器の冷媒や断熱材等の発泡剤等に使用します。オゾン層を破壊しませんが、強い温室効果があります。	４～12，400 【1,300(HFC-134a)】
パーフルオロカーボン（PFCs）	主に半導体の製造工程等において使用されます。強い温室効果があります。	―
六ふっ化硫黄（SF_6）	主に電気絶縁ガスや半導体製造工程等において使用されます。強い温室効果があります。	―
三ふっ化窒素（NF_3）	半導体製造でのドライエッチングやこれらの製造装置のクリーニングに使用。	―

２　温室効果ガス排出状況

（１）種類別の温室効果ガス排出量

（単位：ｔ－CO_2）

年度 / 温室効果ガスの種類	令和6年度	令和7年度	前年度比
二酸化炭素（CO_2）	23，067	25，059	8．6%増加
メタン（CH_4）	434	417	3．9%削減
一酸化二窒素（N_2O）	950	933	1．8%削減
ハイドロフルオロカーボン類（HFCs）	3	4	33．3%増加
パーフルオロカーボン（PFCs）	－	－	－
六ふっ化硫黄（SF_6）	－	－	－
三ふっ化窒素（NF_3）	－	－	－
合　計	24，455	26，412	8．0%増加

※小数点以下を端数処理（四捨五入）しているため、合計と一致しない場合があります。

（２）温室効果ガス排出量とその推移　　（単位：ｔ－CO_2）

排出起源＼年度		平成25年度（基準年度）	令和6年度	令和7年度	基準年度比	前年度比	令和12年度（目標値）
電気の使用		16，445	14，745	14，892	－9．4%	0．9%	8，058
燃料の使用	都市ガス	3，248	2，175	2，221	－31．6%	2．1%	1，592
	LP ガス						
	A 重油						
	灯油						
	ガソリン・軽油（公用車燃料除く）						
	公用車燃料	426	350	340	－20．2%	－2．9%	277
ごみの燃焼		24，534	6，256	8，081	－67．1%	29．2%	7，800
その他 ・自動車（走行・エアコン） ・下水、し尿の処理		1，973	929	877	－55．5%	－5．6%	1，973
合　計		46，626	24，455	26，412	－43．4%	8．0%	19，700

※小数点以下を端数処理（四捨五入）しているため、合計と一致しない場合があります。

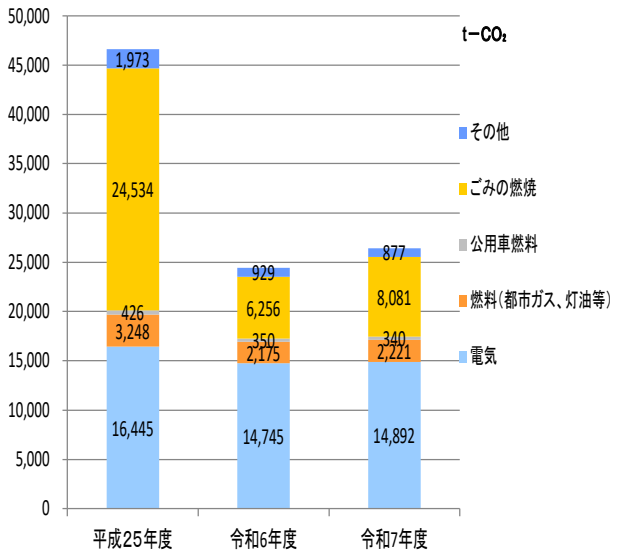
電気の使用については、施設の更新工事中に空調設備を使用しなかったことや照明設備のLED 化等の節電対策により、電気使用量は前年度から減少しましたが、温室効果ガス排出量は各電力供給会社の電気による排出係数の変更もあり、増加しました。

燃料の使用については、令和６年度に一時閉館していた市民プールが通常通り開館していたことによるＡ重油使用量の増加、保健センターで高圧ケーブルの修繕工事期間の停電中に非常用発電機を稼働させていたことによる軽油の使用量増加により、燃料の使用量増加に伴い、前年度と比較して温室効果ガス排出量も増加しました。

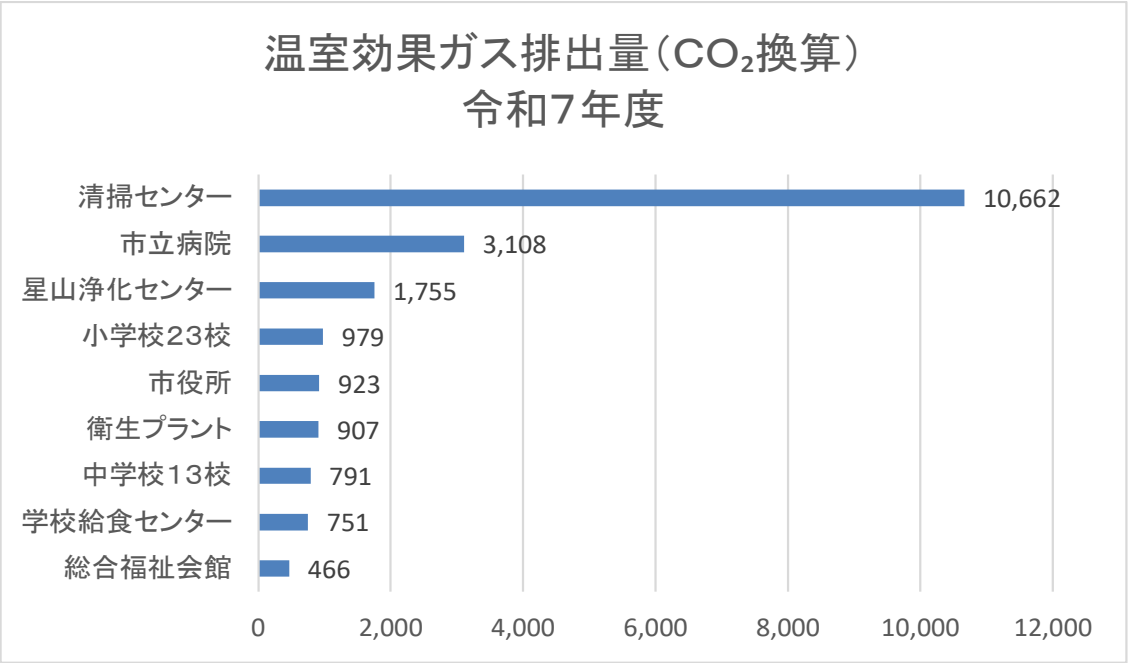
公用車燃料については、燃料代高騰を意識し公用車の利用を効率化したことにより、走行距離が減少したことで、ガソリンの使用量が減少し、前年度と比較し温室効果ガス排出量が減少しました。

ごみの燃焼については、清掃センターにおけるごみの焼却量は増加したことにより、前年度より温室効果ガス排出量が増加しました。

その他については、星山浄化センターでの下水処理量が減少し、電力使用量も減少しましたが、温室効果ガス排出量は各電力供給会社の電気による二酸化炭素排出係数の変更もあり、前年度より温室効果ガス排出量が減少しました。



（３）主要施設別の温室効果ガス排出量　　（単位：ｔ－CO_2）



（単位：ｔ－CO_2）

施設名	二酸化炭素（CO_2）	メタン（CH_4）	一酸化二窒素（N_2O）	合 計
清掃センター	10，186	1	475	10，662
市立病院	3，108	－	－	3，108
星山浄化センター	1，145	224	386	1，755
小学校23校	979	－	－	979
市役所	923	－	－	923
衛生プラント	842	53	12	907
中学校13校	791	－	－	791
学校給食センター	751	－	－	751
総合福祉会館	466	－	－	466
合　計	19，191	278	873	20，343

※市の事務事業全体で排出された温室効果ガスは、国の法律に従い、CO_2の排出量に換算し、表記しています。

二酸化炭素は電気や燃料の使用、ごみの燃焼に伴って排出されます。ごみの燃焼からの排出量が多いことから清掃センターでの排出量が最も多く、次いで市立病院、星山浄化センターからの排出の順となっています。

令和７年度は前年度に比べ、ごみの焼却量が増加したため、二酸化炭素排出量は前年度比で８．６％増加しました。

3　令和７年度取組結果

（１）省エネ設備の導入

施設名称	導入設備
西富士駅駐輪場	LED 照明
上野会館	LED 照明
安居山公園	LED 照明
保健センター及び救急医療センター	LED 照明
生活排水処理センター	LED 照明
市立病院（3・4・5・RF 階）	LED 照明
西消防署	LED 照明
中央消防署	LED 照明
第 20 分団詰所（上井出）	LED 照明
第 22 分団詰所（原）	LED 照明
南部公民館	LED 照明
中央図書館	LED 照明

（２）太陽光発電設備の導入

施設名称	設置容量	売電状況
富士宮駅前広場	４．１kW	余剰売電
富士根交流センター	４７．９７kW	PPA

（３）公用車における電気自動車の導入状況

車	台数
電気自動車（EV）	3台
プラグインハイブリッド車（PHV）	2台